

2020年度決算及び2021年度業績見通し

2021年5月7日

三菱商事株式会社

(将来に関する記述等についてのご注意)

- ・ 本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。
- ・ また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報、及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいようお願い致します。
- ・ 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

(本資料における留意点について)

- ・ 本資料における「連結純利益」は、非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する当期純利益の金額を表示しています。

2020年度決算及び2021年度業績見通し

	2019年度 実績	2020年度 実績	増減	2020年度 業績見通し	増減	2021年度 業績見通し
連結純利益	5,354億円	1,726億円	▲3,628億円	2,000億円	▲274億円	3,800億円
事業系	3,204億円	1,066億円	▲2,138億円	1,304億円	▲238億円	3,163億円
市況系*	1,990億円	506億円	▲1,484億円	516億円	▲10億円	647億円
一株当たり配当	132円	134円	+2円	134円	±0円	134円

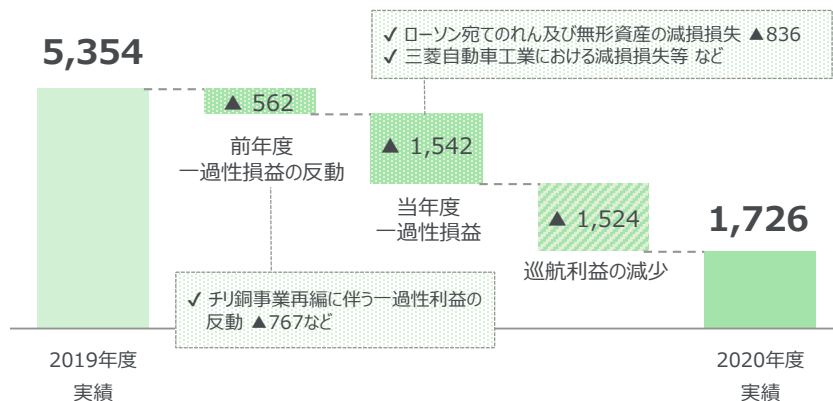
※「市況系」は天然ガスセグメントの内、北米シェールガス及びE&P、金属資源セグメントの内、トレーディング・インキュベーション関連以外、産業インフラセグメントの内、船舶（一般商船）を含めています。

<2020年度決算の概要>

(億円)

◎ 連結純利益は前年度比▲3,628億円の減益となった。

- ✓ 新型コロナウイルスの影響や資源価格の低迷を背景に、豪州原料炭事業やLNG関連事業、自動車関連事業などにおいて利益が減少した。
- ✓ これに加え、前年度に計上したチリ銅事業再編に伴う利益の反動や、当年度に計上したローソン宛てのれん及び無形資産の減損などにより、大幅減益となった。



<2021年度業績見通し及び配当見通し>

(億円)

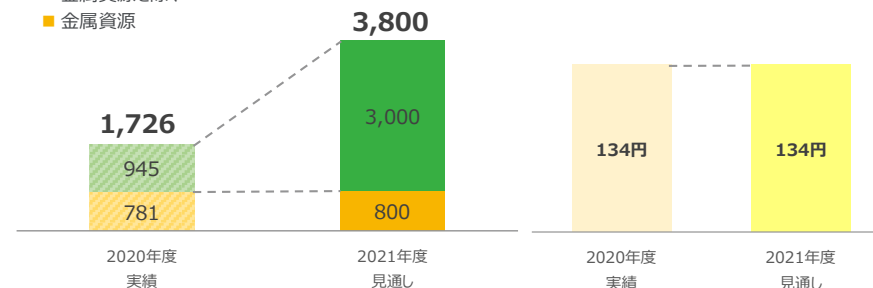
◎ 2021年度業績見通しについては、3,800億円を見込む。

- ✓ 前年度の大口減損の反動に加え、自動車・モビリティグループ、天然ガスグループなどを中心に着実な回復を見込む。
- ✓ 金属資源グループは、足もとでの原料炭価格の低迷も踏まえ、慎重に見極める必要があるため、前年度比微増の計画としている。

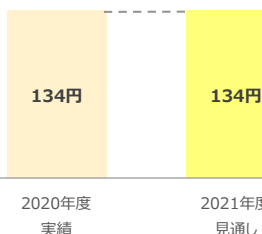
◎ 配当見通しについては、2020年度と同額の134円を据え置く。

<業績見通し>

- 金属資源を除く
- 金属資源

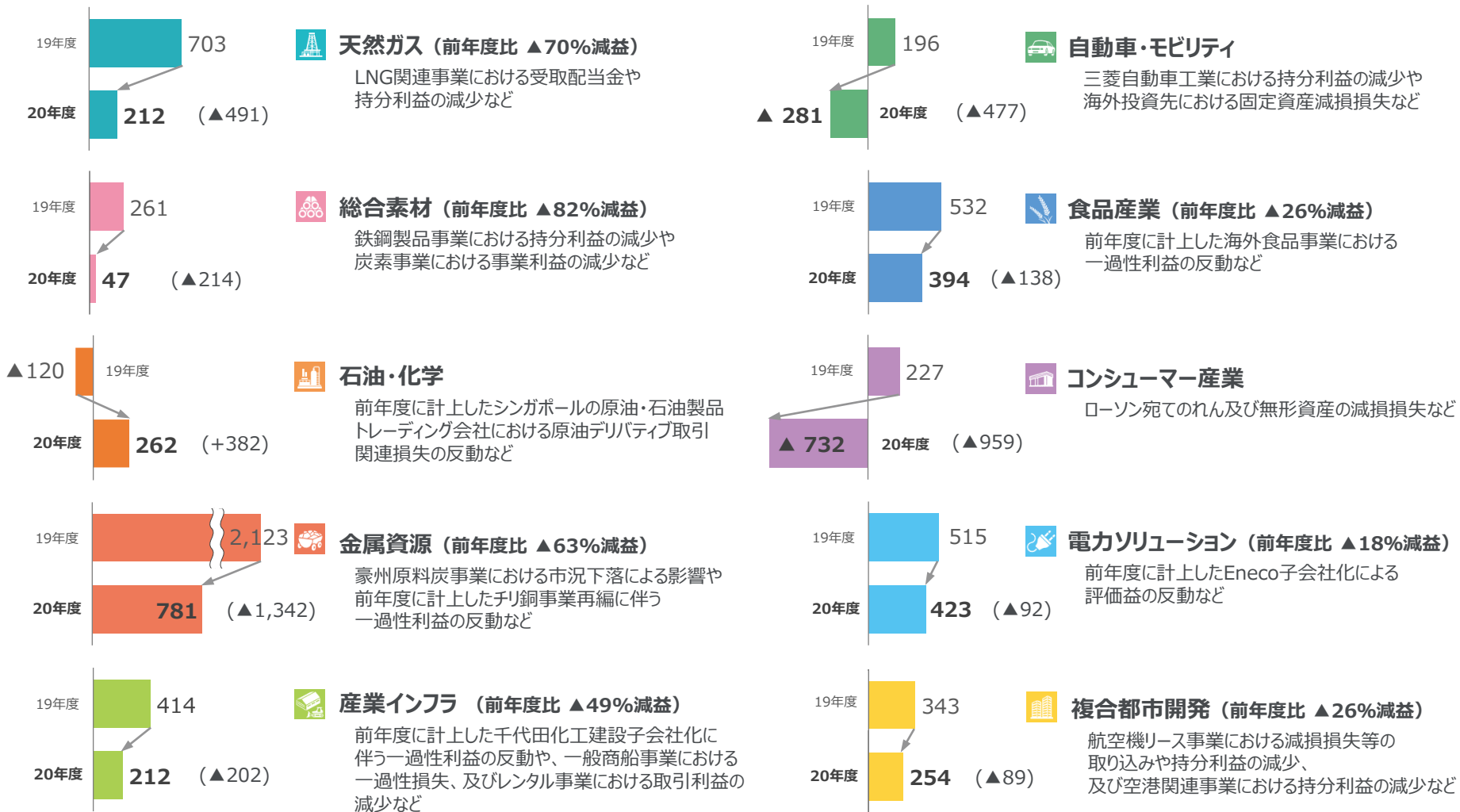


<配当見通し>

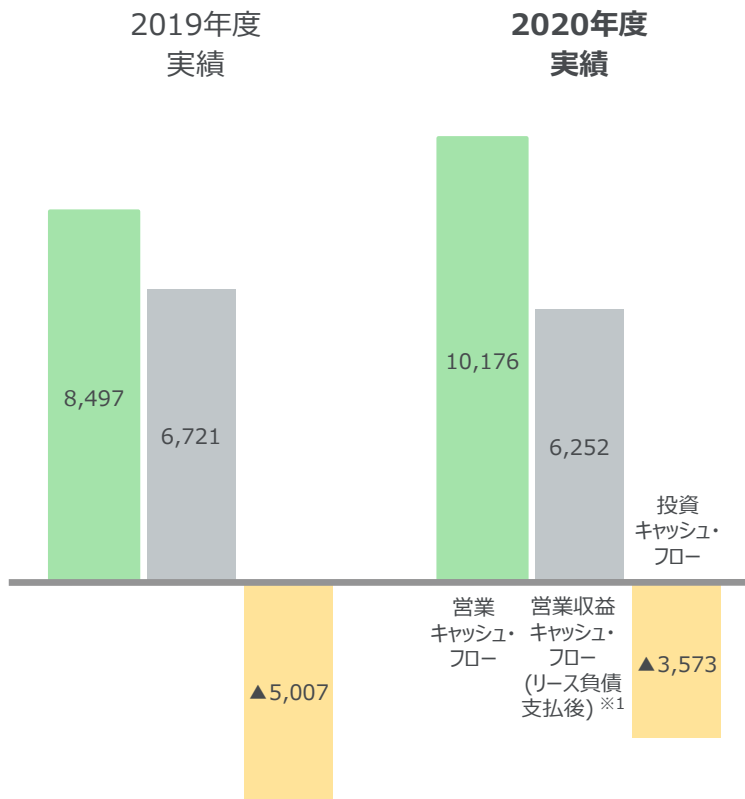


セグメント別の状況

連結純利益： 2019年度実績 5,354 (億円)
2020年度実績 1,726 (▲3,628：前年度比)



キャッシュ・フローの状況



【キャッシュ・フローの主な内訳】

(億円)

参考	2019年度	営業収益CF (リース負債支払後)	投資CF			調整後FCF
			新規・更新投資	売却及び回収	ネット	
	2019年度	6,721	▲10,514	5,507	▲5,007	1,714
	2020年度	6,252	▲8,034	4,461	▲3,573	2,679

【2020年度の投資キャッシュ・フローの主な内容】

新規・更新投資	売却及び回収
<ul style="list-style-type: none"> ・欧州総合エネルギー事業 (電力ソリューション) ・LNG関連事業 (天然ガス) ・HERE Technologies社宛て投資 (その他) ・北米不動産事業 (複合都市開発) ・蒙州原料炭事業 (金属資源) ・銅事業 (金属資源) 	<ul style="list-style-type: none"> ・上場有価証券 (その他・食品産業・コンシューマー産業など) ・北米シェール事業 (天然ガス) ・北米不動産事業 (複合都市開発)

<調整後フリーキャッシュ・フロー※2>

+1,714

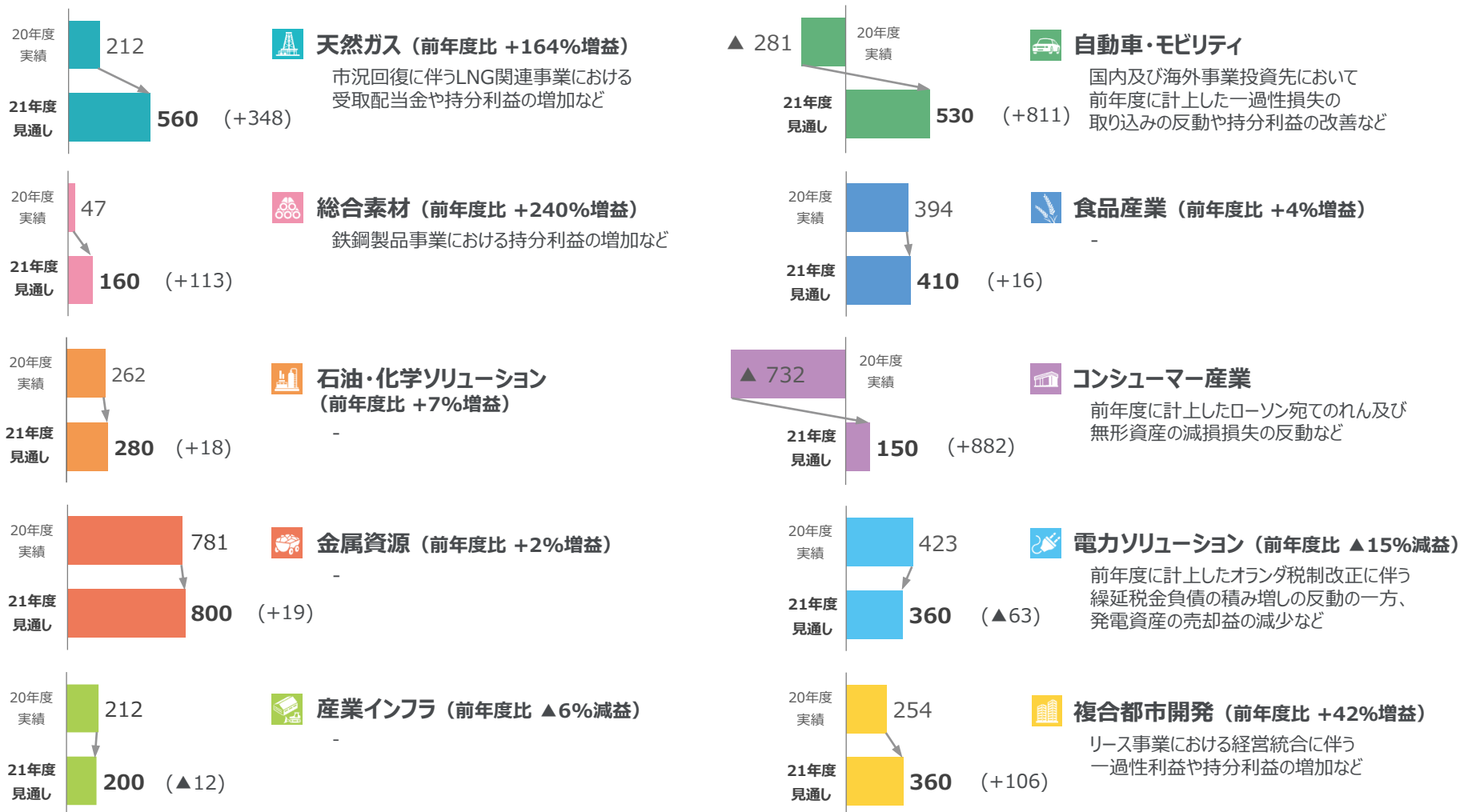
+2,679

※1 営業収益キャッシュ・フロー (リース負債支払後) : 運転資金の増減影響を控除した営業キャッシュ・フロー (連結純利益 (非支配持分を含む) - 減価償却費 - 投資活動関連損益 - 未配当の持分法損益 - 貸倒費用等 - 繰延税金) にリース負債の支払額を反映したものである

※2 調整後フリーキャッシュ・フロー : 営業収益キャッシュ・フロー (リース負債支払後) と投資キャッシュ・フローの合計

セグメント別の2021年度業績見通し

連結純利益： 2020年度 実績 1,726 (億円)
2021年度 見通し 3,800 (+2,074 : 前年度比)



【参考】市況の状況

【為替・商品・金利市況の状況】

	2020年度 実績	2021年度 業績見通し※	増減	2021年度業績見通しに対する損益インパクト [油価・銅地金については、生産数量等により大きく変動する 可能性があるため、現時点での試算に基づく参考値を記載]
為替 (円/US\$)	106.10	108.00	+1.90	1円の円安/円高につき年間20億円の増益/減益インパクト。
油価 (ドバイ) (US\$/BBL)	47	54 [21年4月～9月 : 57]	+7	US\$1/BBLの上昇/下落につき年間25億円の増益/減益インパクト。 連結会社との決算期の違いやLNG販売価格への油価反映の タイムラグ等による当社の実績への影響に鑑み、6か月前の油価 (通期：10～9月平均)を記載している。 但し、油価の変動以外にも、配当性向、為替要因、生産・販売数量 等の複数の影響も受けるため、油価のみで単純に決定されるものでは ない。
銅地金 (US\$/MT) [US¢/lb]	6,897 [313]	7,826 [355]	+929 [+42]	US\$100/MTの上昇/下落につき年間13億円の増益/減益インパクト (US¢ 10/lbの上昇/下落につき年間28億円の増益/減益インパクト)。 但し、銅の価格変動以外にも、粗鉱品位、生産・操業状況、再投資 計画(設備投資)等の要素からの影響も受けるため、銅の価格のみ で単純に決定されるものではない。
円金利 (%) TIBOR 3M	0.07	0.10	+0.03	取引利益や投資利益により金利上昇の影響は相殺される部分が 相当あるが、金利上昇が急である場合には一時的に影響を受ける。
US\$金利 (%) LIBOR 3M	0.30	0.30	±0.00	

※ 業績見通しは、通期平均価格を記載している。